

武蔵野市青少年平和交流派遣団 活動報告書

平成29年8月8日(火)~10日(木)



武 蔵 野 市

派遣にあたって

今年、武蔵野市は市制施行 70 周年を迎えました。この節目の年に、あらためて若い世代が、戦争や被爆の実相を学び、平和の大切さについて考える機会となるよう、市内に在住・在学の中学生・高校生を、青少年平和交流派遣団として、長崎市へ派遣いたしました。

戦後 72 年が経過し、戦争を体験した世代が減少するなかで、団員たちの派遣団への応募動機からは、家族や親類からの話、学校での授業、テレビのニュースなどで戦争について知り、平和のために自分にできること、すべきことを考えそれを広めていきたいという思いが伝わり、非核都市宣言のまち武蔵野市として頼もしく感じられました。

派遣にあたっては、市内在住の被爆者の方のお話を伺ったり、市内の戦争遺跡を巡るなど、原爆や武蔵野市内にあった中島飛行機武蔵製作所の空襲について学習しました。団員たちは、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えるなかで、戦争体験を直接聞ける最後の世代という自覚を持って、長崎に向かうことができたと思います。

派遣中は、平和祈念式典への参列をはじめ、全国から集まった青少年と平和について意見を交わすピースフォーラムへの参加、原爆被爆遺構めぐりなどを行いました。また、田上富久長崎市長を表敬訪問した際には、田上市長から長崎での体験を、知識として吸収し、家族や友人たちに伝えていくという行動に転化して欲しいとの言葉をいただきました。団員たちにとって、平和を守ることの大切さをあらためて感じた3日間だったことでしょう。

市では、初空襲を受けた 11 月 24 日を「武蔵野市平和の日」に制定しています。この日の意味を世代を超えて共有し、戦争も核もない世界を実現するため、国内外へ平和の尊さを発信してまいります。

平成 29 年 11 月
武蔵野市長 松下 玲子

も く じ

1 武蔵野市青少年平和交流派遣事業について……………	1
2 平和交流派遣の様子……………	5
3 事前学習の様子……………	11
4 平和交流派遣を終えて……………	23
5 編集後記……………	32

武蔵野市青少年
平和交流派遣事業について



武蔵野市青少年平和交流派遣団の概要

長崎に原子爆弾が落とされてから今年で72年が経過し、被爆の実体験者が少なくな中、あらためて若い世代に、戦争の実相を学び、平和について考えてもらうため、市内に在住・在学の中学生・高校生7名を青少年平和交流派遣団として長崎市へ派遣しました。またサポーターとして大学生2名にも参加していただきました。

派遣前の3回の事前学習で原爆や武蔵野市の空襲について学び、8月8日～10日の派遣期間中は、平和祈念式典への参列や被爆遺構めぐりなどを行い、青少年ピースフォーラムで被爆体験講話や平和を考える学習会に参加しました。

今後、団員たちは派遣で学んだことを家族や友人たちに伝え、平和への想いを広めていきます。



* 青少年ピースフォーラム

全国の青少年と長崎の青少年とが、ともに被爆の実相や平和の尊さについて学び、交流を深めます。同フォーラムでは、長崎市青少年ピースボランティアの高校生・大学生が平和学習の進行や被爆建造物の案内などを行っています。



青少年平和交流派遣団員名簿

派遣団員

氏名	学年	グループ
松原 妃那 (まつばら ひな)	中 1 年	1
水野 柚理 (みずの ゆり)	中 1 年	2
小山 暁宏 (こやま あきひろ)	中 2 年	2
田中 美紗希 (たなか みさき)	中 2 年	1
山田 佳怜 (やまだ かれん)	中 2 年	1
坂本 双葉 (さかもと ふうたば)	高 2 年	1
高橋 佑香 (たかはし ゆうか)	高 2 年	2

大学生サポーター

高比良 研人 (たかひら けんと)	成蹊大学	2
兼子 拓也 (かねこ たくや)	成蹊大学	1

引率職員

小島 麻里 (こじま まり)	市民活動担当部長
柴田 奈津子 (しばた なつこ)	市民活動推進課主任

青少年平和交流派遣団 派遣スケジュール

	8月8日（火曜日）		8月9日（水曜日）		8月10日（木曜日）	
6	6:00	三鷹駅北口集合 (マイクロバスで移動)	6:00	起床	6:00	起床
7		羽田空港着	6:30	朝食	7:00	朝食
8	8:15	羽田空港発	8:00	ホテル発		荷物整理
			8:20	平和公園着	8:30	ホテル発
9			9:10	平和像前にて市長と記念 撮影	9:00	【原爆遺構めぐり】徒歩 (平和ガイド) 城山小学校 ↓ 山王神社 ↓ 長崎医大 ↓ 浦上天主堂 (他)
10	10:05	長崎空港着 (マイクロバスで移動)	10:35	平和祈念式典		
11	11:20	原爆落下中心地見学	11:45			
					11:35	昼食
12	12:00	昼食	12:15	昼食	12:50	大浦天主堂・グラバー園 見学
13	13:30	青少年ピースフォーラム	13:30	青少年ピースフォーラム		
14						
15			15:40	原爆資料館見学		
16					16:50	長崎空港発
17			17:30	原爆資料館発		
18	18:00	交流会 (長崎新聞文化ホール)	18:10	長崎市長表敬訪問	18:40	羽田空港着・解散
19			19:00	夕食(今日の振り返り)		
20	20:00	ホテル着 (今日の振り返り)	20:40	ホテル着		
21		翌日の準備等		明日の準備		
22	22:00	就寝	22:00	就寝		



平和交流派遣の様子



派遣の様子

派遣初日 8月8日(火)

主な活動

- ・原爆落下中心地見学
- ・青少年ピースフォーラム1日目
- ・平和交流会



・原爆落下中心地見学

長崎に着き、最初の見学地の「原爆落下中心地」では、被爆した浦上天主堂の一部と当時の地層を見ることができました。写真で見るよりも目で見て聞く方が、何倍もその日の情景を思い浮かべることができ、原爆の怖さを感じました。



・青少年ピースフォーラム1日目

長崎の中高生ピースボランティア(ピーボ)の方々を中心に、各地から集まった参加者とフィールドワークなどを行いました。フィールドワークでは資料館やその周辺をピーボの方々に案内してもらい、知識を深めました。



・平和交流会

ピースフォーラム1日目で仲良くなった子たちと一緒に、ご飯を食べたりしてより交流を深めました。また、他県の方のスライドなどもみて、その土地の平和への考えを学習しました。

派遣2日目 8月9日(水)

主な活動

- ・平和祈念式典
- ・青少年ピースフォーラム2日目
- ・原爆資料館見学
- ・長崎市長表敬訪問



・平和祈念式典

被爆者の合唱から始まった式典。そこには厳肅な雰囲気があったよっていました。世界中が唯一の被爆国、日本に注目し、「平和」とは何かを探し求めているように感じました。そして 11 時 02 分、一気にあたりが静まりかえり、人生の中で最も長い1分間を体験しました。



・青少年ピースフォーラム2日目

1日目とは違い、2日目はグループワークを中心に行いました。1日目と同じメンバーで、身近な戦争や平和についての意見を出し合い、交換しました。1日目でだいぶ打ち解けあったので、どのグループも活発なディスカッションがなされていました。



・原爆資料館見学

当時の被害がありのままに展示されていました。原爆一投により、こんなにも多くのものを破壊し、多くの人々の命や人生を奪ってしまったのだと改めて原爆の恐ろしさ、戦争の虚しさを感じました。

長崎市長表敬訪問

<あいさつ>

本日は私たち武蔵野市青少年平和交流派遣団のためにお時間をいただきありがとうございます。団員を代表してご挨拶させていただきます。

私は今年の秋、沖縄へ修学旅行へ行く関係で戦争についての事前学習を進めております。その中で今の平和の土台となった、被爆地の果たした役割について関心を持つようになりこのプログラムに参加いたしました。

ここに来る前の3回にわたる武蔵野市の学習会で学んだ知識を実際に自分の目で見ることによって定着させ、それぞれの意味を知ることができました。また実際の被爆者の方のお話や、青少年ピースフォーラムで全国の方々と交流することで抱いた感情を思い出として風化させるのではなく東京に帰ったら私の家族友人に伝える、或いは大学生になったらボランティア活動に参加するなどしっかりと活かしてまいりたいと考えております。

本日は、ありがとうございました。

武蔵野市青少年平和交流派遣団 団員 高橋佑香

<感想>

短い時間でしたが、お忙しい中、長崎市長はお時間をとってくださり、私たちにお話をしてくださいました。市長は私たち一人一人に長崎へ来て感じたこと、知ったことをお聞きになり全員の言葉を聞いたのち、私たちが長崎へきて知るだけでなく感じてくれたことがうれしいとおっしゃいました。その日は午前中に平和祈念式典にも参列したのですが、そこでも被爆者の方の代表の1人の方が当時の様子について語ってくださいました。それを受け、市長は被爆者の方々がその経験を話すのは本当につらいことなのだと、しかし私たちなら変えられると信じてくださっているから話して下さるのだとおっしゃいました。

私たちの持つ力に期待し、市長からその言葉を直接いただけるのは本当にありがたいことだし、裏切っではいけないと痛感しました。いただいたバッジを胸に派遣団として行ったことの使命をこれからも果たしてまいりたいです。また市長へのあいさつで宣言したことも、「有言実行」できるように努めてまいります。



長崎市長からいただいたバッジ



派遣3日目 8月10日(木)

主な活動

- ・城山小学校見学
- ・山王神社見学
- ・浦上天主堂見学
- ・グラバー園見学



・城山小学校見学

爆心地から500mの場所にある城山小学校は旧校舎の1部が資料館になっており、当時の小学校の被害を知ることができます。校庭には、佳代子桜や平和モニュメント少年平和像があり、自分の目で、原爆の威力の大きさを感じることができました。



・山王神社見学

一本鳥居、爆風によって1本だけになってしまった鳥居は爆風を受けた面だけ触った感触が違い、爆風の恐ろしさをより実感しました。



・浦上天主堂見学

浦上天主堂は残存する原爆遺構であり、日本最大規模のカトリック教会です。中には被爆マリア像も展示されています。



・グラバー園見学

日本最古の木造西洋風建築で、国の指定重要文化財にもなっています。長崎市内に点在していた6つの明治期の洋館を移築復元したものです。



平和祈念式典参列時に着用したシャツにプリントされたデザイン

イラスト：小山 暁宏

事前学習の様子



事前学習について

結団式

6月15日(木)

文:高比良 研人

だいぶ早めに集合場所についた私は団員の名簿をもらい、初めて今回の参加者を知りました。中学生の参加が多いのが印象的で、中学生の時から平和について関心を持ち、こういった活動に参加することにとっても感心しました。

当日は資料の配布と自己紹介、参加理由表明を行いました。団員それぞれの自己紹介と参加理由を聞いたときに、とても驚きました。きちんと自分の言葉で堂々と発表していたからです。自分が中学や高校の時では想像もできません。それと同時にこの団員で行くのがとても楽しみになりました。結団式が終わり帰路につく頃には初対面とは思えないくらいに仲良くなっていて、実施に対する不安や緊張が一気になりました。



文:坂本 双葉

1回目の学習会は「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」の牛田守彦先生が来てくださいました。

長崎の原爆を学ぶ前に、武蔵野市代表として学びに行くので、武蔵野市のことも知っておこうということで、1回目の学習会は、武蔵野市の戦争の歴史についてでした。長崎の戦争について学ぶ前に私たちの武蔵野市にも戦争の被害があったことを知りました。武蔵野市にはかつて中島飛行機という軍需工場がありました。戦争で使われた、隼や零戦のエンジンを作っていました。その工場を狙った米軍の爆撃により働いていた大人や学徒労員が亡くなりました。外れた爆弾が周辺の住宅に落ち、一般市民も犠牲となりました。また、広島、長崎に落とされた原爆の模擬爆弾も落とされました。自分たちの住んでいる武蔵野市のことだけど、今まで知らないことが多く、みな驚いていたようでした。

次に、藤本竹次さんのお話を聞きました。11歳のころ、長崎で被爆されたそうです。地図を見ながら、その話と合わせて想像を膨らませました。



文:高橋 佑香

第2回学習会では、第1回のおきも講義してくださった「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」の牛田先生の案内のもと、武蔵野市の戦争の歴史について学びました。順路としては、

武蔵野総合体育館 → 都立武蔵野中央公園・はらっぱむさしの → 延命寺 → 源正寺 →
武蔵野ふるさと歴史館 → 井の頭自然文化園

というように行きました。暑い中でしたが、皆、真剣に学んでいました。

武蔵野総合体育館では、武蔵野での空襲の時に逃げ場となった防空壕が崩落し、生き埋めになった方がいるという話を聞きました。一番に聞いた話だったので衝撃はとても大きかったです。中央公園・はらっぱむさしのは日



本有数の軍需工場、中島飛行機武蔵製作所の跡地です。そこでは子どもたちが元気に遊んでいる様子が見えました。今の平和が悲惨な歴史の上にあるということをまさに実感できました。ここはその歴史の傷跡を残さずに新たなシンボルとして姿を変えましたが、残しておくのがいいのか、危険かつ維持費用も掛かるため取り壊したほうがいいのか、難しいところだと感じました。延命寺では住職の方のお話を伺いました。その方は空襲を小学校2年生の時に体験されたとおっしゃいました。その方は少し難しかったのですが、何よりも感じたのは、本当に細かいところまで覚えていらっしゃるということでした。何十年前の記憶なのに、細かいセリフや感情を一つ一つ話してくださるのです。そのくらい戦争は、その人の人生の大半を占め、変えてしまう。そのことが頭から離れませんでした。源正寺では空襲を受けて弾痕の残った墓石を見ました。生々しく残ったその跡は、死者の眠る墓石さえも、という無常さがうかがえました。ふるさと歴史館では、より分かりやすく武蔵野の戦争について知りました。不発弾も見ましたが、あれほどのものが頭上から降ってくるとは恐れおののきました。最後は井の頭自然文化園に行き、北村西望作である平和の像とアトリエを見学しました。実際に長崎に行き平和祈念式典に参列した時にも見ましたが、非常に大きく包み込んでくれるようでした。

私は武蔵野市でずっと育ってきたわけではなく、小中学校も武蔵野市ではなかったため、今まで全然武蔵野の戦争について知りませんでした。中島飛行機の名前すら聞いたこともありませんでした。しかし、今の繁栄の裏にこんなにも歴史があったことを知り、衝撃を受けました。おそらく知らうとしなければ私は一生知らずに生きていくこともできたと思います。しかし、それではいけないことを実感しました。伝える一人として、責任感をもってこれからも努めたいです。

文:坂本 双葉

長崎の「原爆について」と「地理的特徴」についての二つに大きく分けて調べ、それぞれが発表しました。実際に自分が調べてみることで「そろそろ行くんだ。」という実感もわいてきました。みんなの発表は、しっかり調べられていて説明もわかりやすく、同学年と後輩しかいないのにすごいな、と思いました。こうやって発表したことで、実際に長崎に行ったときにカステラは〇〇屋がいいよ、とか〇〇が有名だよ、という会話になりました。また、原爆について調べた班は先取り学習となって、より理解がスムーズになったと思います。次会うのは、いよいよ派遣日初日です。



グループ1 テーマ「原爆の被害について調べてみよう」

長崎に原爆が落とされるまでの経過

1938年 ドイツで核分裂が発見される。
↳ 原爆に应用できる可能性が示された。

1942年 アメリカが「マンハッタン計画」を始める。
★ 60万人の軍人や科学者が関わる
★ 20億ドルのお金がつぎ込まれる

1945年 最初の原爆が開発される。
ニューメキシコ州のアラモドで核実験が行われる。
5月、ドイツが降伏したため、投下される場所
が日本に変更される。
投下する候補地が、18か所から広島、小倉(現北九州市)
長崎に決まる。

8月9日 フォルトニウム爆弾「ファットマン」を積み込んだ
B29の「ボックスカー」は第一目標の小倉に向かう。

↓
原爆投下はレーダーではなく目視確認で
行うことになっていたが、小倉は焼夷弾の煙で
街が見えなかった。↓

第二目標の長崎もくもっていたが雲の切れ間
から見えた工場に落とした。(原爆は落ちる途中にまがったため
工場には直接落ちなかった)

～長崎の人的被害～

松原 妃那

第二次世界大戦末期の1945年8月9日午前11時02分
東経129度51分47秒、北緯32度46分26秒の長崎市内に人類史上実際の戦争で
使用された最後の原爆がおちました。
その原爆により、被害を受けた方は、当時から72年た、今でも
たくさんいら、しゃいます。

ー原爆投下当時の被害ー (急性障害)

◎熱線による被害

原爆が爆発した時表面温度は太陽と同じくらいになった。
人々の皮膚は熱線を浴び、焼けただれてはがれおちた。
身体は炭のようになった。→やけど
↳即死が数日の間に亡くなった。

◎爆風による被害

爆風による力で建物は押しつぶされ、吹き飛ばされた。
建物の下敷きになり、たくさんの方が亡くなった。
また、火災の発生源にもなった。→外傷、骨折

◎放射線による被害

人の体に入りこみ、細胞、内臓をこわし、病気になる。
→吐気、だるさ、髪が抜ける

ー4ヶ月後あらわれる被害ー (後障害)

◎ケロイド…やけどの後にできるもので、やけどのあとがもりあがったもの。

◎原爆白内障…目の水晶体が白くにごり、見えにくくなる。

◎小頭症…母親のおなかのなかで原爆にあつた子の頭が小さい病気。

◎白血病…血液のがん。

◎がん

以上の後障害は被爆者の子孫へ遺伝し、今でも
たくさんの方々を苦しめている。

原爆がもたらす 物的被害

★投下後 20日目のようす

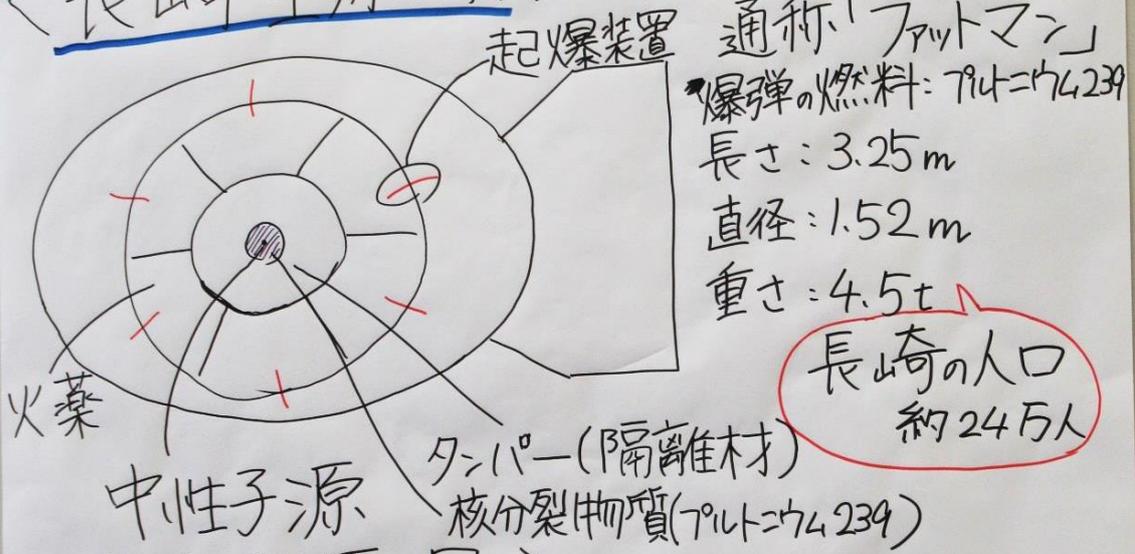
- 市街
- ・電車や自動車が吹きとばされる
 - ・ガラスが一枚も残らず、鉄棒がひしやげている
 - ・マンホールの蓋もほとんどなくなる・焼け野原
 - ・3~1階まで、建物の角がつぶれている (城山小学校)
 - ・墓標と大木が根本近くからねじ伏せられる (オランダ墓地)
 - ・浦上天守堂の天井のドームも
ひっくり返って地上に転がり落ちた
(浦上天守堂)

9月初旬
城山国民学校の
階段。 →



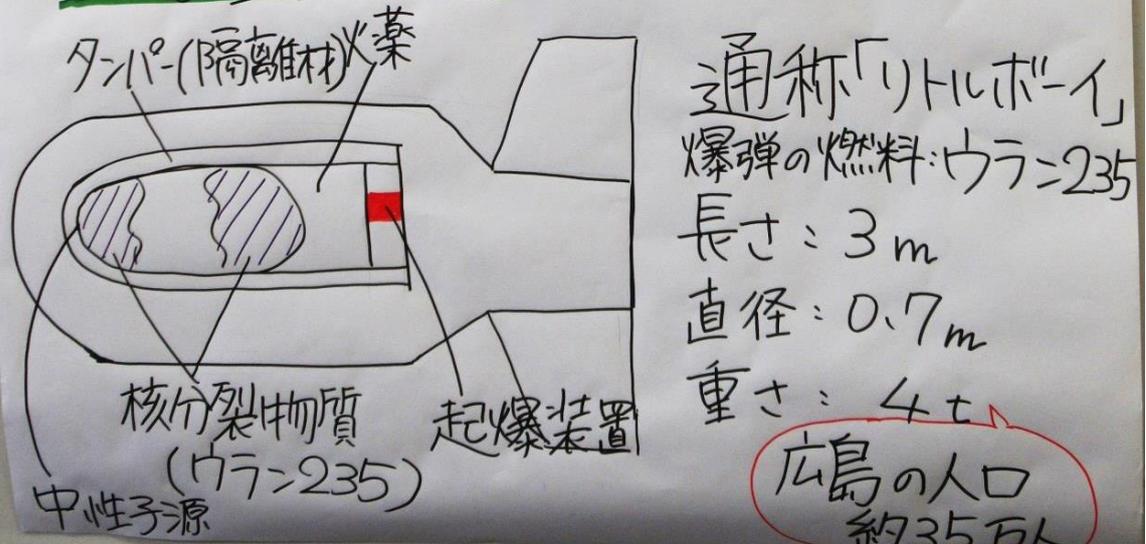
長崎と広島に落とされた 原爆の違いについて

<長崎型原爆>



長崎の人口
 約24万人

<広島型原爆>



広島
 の人口
 約35万人

長崎市の現状

(人口) 423224人 武蔵野市の
<去年よりへってる> 人約 3倍

(面積) 405.86 km² 約 37倍

(人口密度) 1042人/km² 約 1/14倍
<去年より少しふえてる>

(世帯数) 216315世帯 約 1/3倍
<去年よりへってる>

市の木 チンキンハゼ

市の花 アジサイ

<平和活動>

平和公園の中(ばく地に近い)に平和祈念像
があり平和祈念式典などが開かれる

平和の泉...水をもとめて亡くなった方への冥福
を祈りつくられたもの

そのほか世界各国がモニュメントが送られてきている。

長崎の地理

○ 県の基本的な地誌

- ・ 面積: 約4132 km²
- ・ 人口: 約135万人 (2017/6/1現在)
- ・ 人口密度: 約328人/km²

- ・ 地形
 - ・ 島の数: 9721個
 - ・ 海岸線の長さ: 約437km

のうち長崎市

- 約406 km² (全体の9.8%)
- 約41万人 (全体の30.4%)
- 約1040人/km² (県に対して317.1%)

○ 県の気候

- ・ 東シナ海の対馬海流の影響を受け、全体的に温暖で寒暖差の小さい海洋性気候

- ・ 気温 全体的に東京より少し高い(1)

- ・ 最高気温: 30℃ほど (東京: 30℃ほど)
- ・ 最低気温: 4℃ほど (東京: 1℃ほど)

- ・ 降水量: 同じく東京より少し多い(1) (夏はかなり多い)

- ・ 最高値: 314mmほど (東京: 209mmほど)

- ・ 最低値: 60mmほど (東京: 51mmほど)

6月 9月
12月 12月

東京が9月なのは台風が原因

長崎県の名産品

<食べ物>

- ・ びわ ... 長崎県は近くを暖流が流れており、冬でも温暖かつ、南向きの斜面が多いのでびわ生産に適しており、生産量が日本一とされている。びわを使ったお菓子もお土産として多くある。
- ・ ジャガイモ ... 鎖国中対外貿易の唯一の拠点であったが、その中でジャカルタからの貿易船に積まれていたイモ「ジャガタライモ」が語源といわれ、日本有数の産地とされている。
- ・ 漁業 ... 海に面するため漁業もさかんである。獲れる魚の種類は1位とされており、カニやアジなどが有名である。内海の穏やかな気候は真珠もできる。
- ・ カステラ ... 南蛮貿易で伝わってきた、卵と小麦粉を使ったお菓子。「福砂屋」が人気。
- ・ 長崎あんぱん、血うま ... 関東でも食べられるように、長崎名物のリキ。
- ・ 佐世保バーガー ... 佐世保市の当地バーガー。戦時中、海軍の軍需工場があったこの地は戦後米軍の統治下となり、そこで米軍向けにオープンしたバーガーショップが「ほじま」とされる。今は「手取り注文と笑顔をこらつくる」をモットーに長崎グルメに親しまれる。

<伝統工芸品>

- ・ 波佐見焼 ... 美しさとおそろしい白磁に藍色の文様が高く評価される。
- ・ 三川内焼 ... 「織細優美」と称され、「透彫り」の技法や唐ナ絵が有名。
- ・ バコ甲 ... 亜熱帯の海に棲む貝殻という亀の甲羅からできるあめ色の工芸品。亀の甲と並んで「長靴の象徴」縁起がいいとされ江戸時代の下品に愛された。

※ 参考文献

- ・ 長崎県の文化と名産品 くらら
www.tabira-net>info>about>culture 7/16
- ・ 長崎の名産品ランキングTOP4 くらら
www.jalan.net 7/22
- ・ 長崎県の郷土料理一覧 郷土料理TOP10
kyando-ryout.com>area>nagasaki 7/22



平和交流派遣を終えて



青少年平和交流派遣団に参加して

中学1年 松原 妃那

「平和」というたった二文字の言葉、言うのは簡単だけれど自分がある世界が平和であるときっぱり言い切れる世界になるのはものすごく難しいです。今でも世界中で戦争が起きていて、人々は毎日、恐怖を少なからず抱いているはずです。

では、平和と言えるその世界とはどんな世界なのでしょう。

派遣団に参加したことでこのような難しい問題の答えに数歩近づけました。昔は世界戦争に参加し、原爆の被害をも受けたこの日本という国が戦争放棄という平和を得たこれまでの歴史を見て、聞いて、感じて、体験することで改めて平和のありがたさを感じるとともに、この平和の素晴らしさを世界中と共有したいと思いました。

そして、戦争体験者は年々減少し、また高齢になっています。そのため、戦争被害者の体験した話や戦争の恐ろしさを、次の世代を担う私たちがまた次の世代へと語り継がなくてはならないと責任も感じました。

また、ピースフォーラムには日本中の学生が来ているので、違う県の上級生や下級生とも交流でき、なによりも地域の友達が少ない私にとっては、団員の方達と仲良くできたことをとても嬉しく思います。

身近な武蔵野市の戦争被害を学習し、テレビで見ただけであった平和祈念式典に参加させていただき被害者の話を聞くことができ、原爆資料館の被爆当時の長崎のありのままの姿を知ることができました。私にとって、とても貴重な経験で心に深く刻み込まれました。今回の活動に参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。



青少年平和交流派遣団に参加して

中学1年 水野 柚理

私が、この青少年平和交流派遣団に参加しようと思ったきっかけは、小学校のころに、平和について学んだ時に、原爆のおそろしさを知って、その被爆したのが長崎と広島ということを知り、原爆のおそろしさを実感しました。また、「ひめゆり学徒」の「ゆり」は、私の名前の「柚理」が同じでした。そのようなことから、青少年平和交流派遣団に参加しようと思いました。

1日目～2日目に参加した、ピースフォーラムでは、色々な地域から来た参加者の方々と、平和について話し合ったり、実際に被爆者の方からのお話を聞いたりして、平和についての知識を深め、原爆のおそろしさを実感しました。

今、私が暮らしている町でも、明日戦争になる事だってあります。そうなってしまったら私の家族が死ぬかもしれない。私のクラスメイトが死んでしまうかもしれない。私も死ぬかもしれない。そう思うとなんで人は、こんなに悲しい事をやるのだろうかと思いました。今回ピースフォーラムの1日目に聞いた、嘉代子さんの紙芝居が印象に残っています。戦争が起ると、嘉代子さんのような悲劇が生まれてしまいます。なので、私は、今回長崎に行って知ったこと、思ったことを、どんどんみんなに伝えて、少しでも戦争をなくそうと、改めて思えるような派遣団でした。



青少年平和交流派遣団に参加して

中学 2 年 小山 暁宏

今回、武蔵野市の青少年平和交流派遣団に参加させていただいた事は、僕にとって大変貴重な体験だったと思います。

今まで毎年、テレビで見るだけだった長崎の平和祈念式典に参列し、現地で黙祷する事ができました。その日は朝から雨でしたが、式典の始まる頃には止み、とても厳粛な雰囲気を感じました。黙祷の鐘が鳴り響いた時には、72 年前のこの日、この時間に、この場所に原子爆弾が落とされ、多くの方々が亡くなりまた傷つき、家や家族、友人をなくし、恐怖と悲しみに包まれたのだと思い、長崎の被爆者の人々の上に起きた大惨事を感じて、怖くなったのを憶えています。

ピースフォーラムに参加し、被爆体験者の方からお話を伺った事も、とても良かったと思います。この派遣団に参加しなかったら、おそらく一生聞く機会は来なかったと思います。戦後 72 年が経ち、当時の体験者の人々の数も、これからますます減っていくでしょう。僕の親戚関係では、戦争を体験しているのは祖父と祖母だけですし、辛い思い出だろうから、なかなか当時の事は気後れして聞く事ができません。それだけに、今回の体験者の方の話は心に染みしました。その方も、話す事は当時を思い出して辛かったと思われるかもしれませんが、僕達に話して下さい、心から感謝します。フォーラムにおいては、色々な学校の人達と交流でき、色紙を書いて応援の言葉を交換し、改めて平和について深く考えさせられました。

家に帰り、日常の学校生活に戻りましたが、テレビのニュースで核実験やミサイル発射を行っている国を見る度に、僕は長崎原爆資料館で見た、原子爆弾の実物大模型や焼け焦げた遺品を思い出します。いつもの暮らし、安らげる家、楽しい学校や職場、それら全てが破壊されてしまう核兵器を許す訳にはいかないと、僕達は長崎、広島の人々と共に、声を上げて伝えていくべきだと思っています。



青少年平和交流派遣団に参加して

中学2年 田中 美紗希

私が今回、青少年平和交流派遣団に参加したきっかけは、小学生の自由研究で祖父母から戦争の話を聞いたときに、なんて恐ろしいことがあったんだろうという思いが、私の心に強く残っていたからです。疎開した話。街が空爆で炎に包まれた様子を遠くから見た話。

そして、私は戦争を昔話のようにただ聞くだけではなく、戦争という人間の過ちから学び、それを自分たちの未来に活かすためには、戦争のことを本や映像から学んだり、戦争の体験者からもっと詳しく話を聞きたいと思うようになったのです。

今回、この派遣団に参加することによって、私は、長崎の地を訪れ、直接被爆者の話を聞き、原爆の恐ろしさや、被爆者の痛みを身近に感じることができました。長崎に行って、私はたくさんのことを、この目で見て体験してきました。特に、原爆資料館とピースフォーラムでの思い出は忘れられないものになりました。

原爆資料館見学では、当時の原爆が落とされた時の写真や、そのときに爆風などで変形してしまったビンなどが置いてあり、とても衝撃を受けました。私は原爆のことをインターネットや本で事前に調べていましたが、実際に浦上天主堂の朽ちた柱を見たり、被爆者の話を聞くことで、被爆者の気持ちに寄り添うことができるようになりました。嘉代子桜の紙芝居は、当時の様子を思い描くときに役立ちました。

また、ピースフォーラムでは、私と同年代の人が全国から長崎に集まって、平和とはどういうものなのか考えました。最初は知らない人ばかりで、きちんと話し合いができるだろうかと緊張しましたが、すぐにみんなと仲良くなりました。そして、今、私達が生きている時代と戦争があった時代を比較してみました。今の時代にも、偏見やいじめなど、人が人らしく生きていけないことがあります。国と国とが理解し合えないことで憎しみを持ち、戦争が起こるのではないかと。さまざまな意見を出し合って、みんなと気持ちを共有することができました。なにより、武蔵野という枠だけでなく、全国規模で平和について考えることは、私にとって、かけがえのない経験になりました。

この経験をもとに、これからも、戦争を過去のものとして遠ざけることなく、平和を守るためにも、若い世代に伝えていくことを心がけて、これからの毎日を生きていきたいと、強く感じました。



青少年平和交流派遣団に参加して

中学 2 年 山田 佳怜

今回、青少年平和交流派遣団の一員として長崎を訪問し、最も心に残ったのは、爆心地から 500 メートルほど離れた旧城山国民学校の校庭で元気に枝を伸ばし、葉を茂らせていた嘉代子桜の姿である。この名前は、実在した女子学生、林 嘉代子さんに由来する。あの日、当時最新鋭の鉄筋コンクリート建て校舎の3階にいた者は、爆風と熱線にさらされて誰一人として助からなかった。嘉代子さんの母、津恵さんが何日もかけて彼女の亡き骸を見つけ出し、荼毘に付した地に慰霊と平和を願って植えたのが嘉代子さんの大好きな桜の木であった。その後 72 年を経て、立派な大木に成長した嘉代子桜。その後の植樹もあり今では本数も増え、真夏の乾いた校庭に涼しげな日陰を提供していた。

当時の国民学校は現在の小学校に当たる。彼女は長崎県立高等女学校の 4 年生であり、現在でいえば、私と同じ女子中学生である。そんな彼女がなぜその日、国民学校にいたのか。休みを利用し、卒業生として恩師や後輩を訪れていたわけではない。この校舎は、兵器工場の事務所として使用されており、彼女は学徒報国隊員として働いていたのだ。授業を受けることもなければ、夏休みの青春のひとつコマを謳歌することもなく、わずか 15 歳で絶たれたいのち。炎天下で桜の木を見上げながら、72 年後の今を生きる自分の現在の境遇が、いかに恵まれているものか、感じずにはいられなかった。

戦争は、実際に戦地に送られる兵士だけでなく、たくさんの未来ある子供たちのいのちまでも奪う。このことを嘉代子桜が訴えていた。インターネットで検索すれば、嘉代子桜の記事もたくさんヒットするが、そこからは、桜が語りかける平和の尊さにまで思いをはせることはできない。

春の開花時期を除けば、周りの風景に埋没する街路樹の葉桜。そんな桜に平和への誓いを寄せた暑い夏の昼下がりを、私はいつまでも忘れないであろう。



平和派遣団に参加して

高校2年 坂本 双葉

派遣団の活動で、八月九日、長崎の平和祈念式典に参加した貴重な体験をはじめとして、爆心地付近のフィールドワーク、被爆者の講演や、原爆の惨状を学ぶ機会を得た。それらの平和学習を通して、戦争を体験しないでも十分に核兵器の悲惨さと恐ろしさを知った。

実際に、原爆遺構に指定されている、山王神社二の鳥居、旧長崎医科大学門柱、浦上天主堂旧鐘楼、旧城山国民学校校舎を訪れて、それらの、爆風によるリアル過ぎるほどの傾きや、原爆にまつわるエピソードなどにも心が震えた。五十トンもあった浦上天主堂の旧鐘楼は、被爆後しばらく保ったものの、夜中に転げ落ち、その地響きで、生き残った人々は、またアメリカ軍の攻撃が来たかと、恐れたという。長崎原爆資料館に行ったとき、驚いたのは英国で一九五〇年以降、核兵器反対運動が行われていたことだ。日本は唯一の被爆国で、核兵器の悲惨さを知っている国として被爆者を中心とした反戦、反核運動は行われている。英国は一九五〇年代に英国領の豪州の一部で、繰り返し核実験を行った。それに対し、英国国民から、反核運動がおこったとは、驚きだった。そして、まるで世界に同志を見つけた、そんな気分だった。原爆資料館でみた、ロザリオや弁当箱、ガラス瓶などが溶けているのは、原爆の恐ろしさを刻み付けた。ケロイドの跡や、ガラス片で破れ、血が付いた服なども、人へ与えた被害を物語っていた。実際、原爆は一瞬にして大勢の人々の家族を奪い去り、生き残った人々に深い爪痕を残した。被爆者の方は、自分の母親が死体で転がっているとき涙も出なかった、という。ピースフォーラムで、平和でないとき、それは家族や自分を応援してくれる人も死んでしまうとき、と想像したら、絶対に繰り返したくないと思った。

ちょうど今年、核兵器を禁止する史上初の条約が採択された。今回は、節目の年の平和祈念式典だった。総理に核兵器禁止条約に関する言及が期待されていた。しかし、日本は核の傘下の立場から不参加となり、世界中から落胆の声が上がった。条約の主要推進国のオーストラリア・ハイノッチ在ジュネーブ代表部大使は、条約は「核の傘」でも参加できるものとなるよう、具体的行為でなければ、禁止されないものとした、と断言していた。つまり、日本が参加しても問題はなく、迎合されていたのだ。総理は、式典の挨拶では、顔色を変えず、条約に触れなかった。日本政府の姿勢に、長崎市長や、被爆者代表は強い口調で訴えた。

長崎市長に、あなたたちは、種をまきに来ている、知識を吸収して、それをどう生かすか、行動して花を咲かせてほしいと激励された。私たちは、戦争を知らない若い世代として、批判されることがあるが、私なりに長崎派遣団活動という参加し貴重な機会を得て、さらに新聞や本なども加えて読み、知識を深めた。今、私にできることは、この長崎の原爆の惨禍を回りの人々に伝え、忘れないことだ。

世界では、毎日のように紛争が続いている。日本も平和とは言い難い状況である。私は、戦争も原爆もあってはならないと強く思う。



青少年平和交流派遣団に参加して

高校2年 高橋 佑香

私は今回長崎に行って確実に良かったと感じている。長崎で平和祈念式典への参列や青少年ピースフォーラムへの参加など、自分個人ではなかなか難しいことをしっかり考えながらできるということだけでなく、行く前の3回にわたる事前学習で、武蔵野市の戦争を専門の方と実際に見ながら学べたり、被爆者の方のお話を少人数で聞けたりなど、貴重で有意義な体験をすることができた。私は武蔵野市の小中学校には通っておらず、武蔵野市の戦争の歴史や原爆についても考える機会が少なかったため今回のことは新鮮であった。

おそらく誰もが感じることだが、やはり一番感じたのは実際に経験した人による生の声の重さだ。教科書で読むのとはまるで感覚が違い、その方は胸の中の映像を話してくださるから私もその戦場に紛れ込んでいるかのような感覚になった。原爆、戦争の話は内容として重いしできれば触れたくないと感じる部分であるが、「原爆は現実にあった紛れもない事実で、それを体験された方がいて、今その方の話を聞いている」と考えると避けて通ってはいけなく、この声が聞けない世代にも伝えなければいけないという義務を感じた。ピースフォーラムでは同じような歳の子達が、こんなにも皆意識をもって平和について考えているのかと刺激を受けた。また私もその一員になれたことを誇りに感じた。

今回の経験は私にとって一生残るものになった。この経験をしたからには、私自身も平和を考えるリーダーになっていくべきであることを実感した。いつか長崎の方々の思いが実現されることを願う。

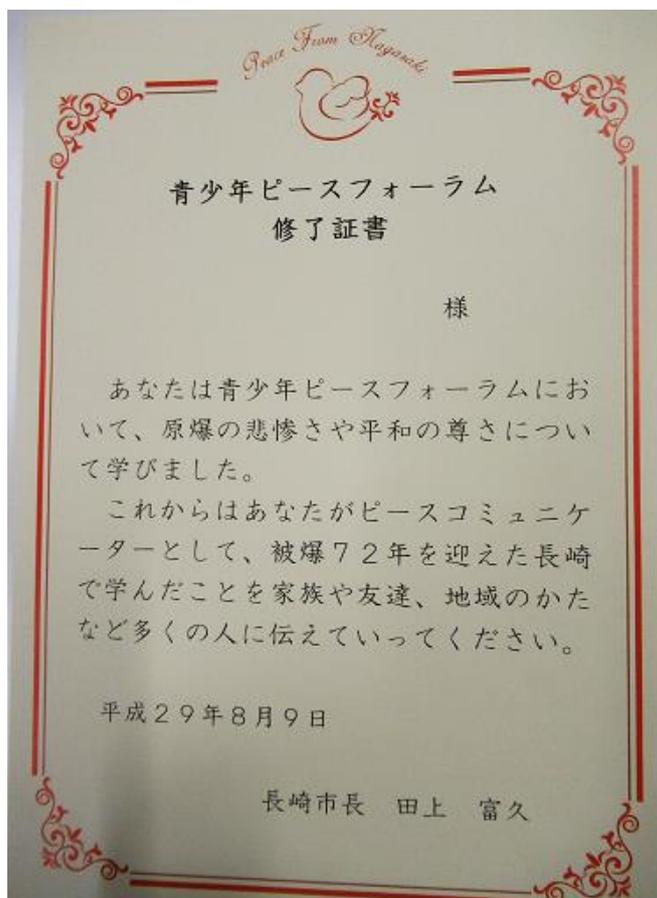


事後の活動について

活動報告書の作成のため、また11月23日に開催される「平和の日」イベントでの活動報告会の準備のため、9月22日と11月16日に団員およびサポーターの大学生がふたたび顔を合わせました。

9月22日は報告書の執筆ページの分担と報告会の発表の担当を決めました。報告書の編集は大学生が担当です。

11月16日は報告会の練習をしました。大学生の進行で、団員それぞれが、自分の思いを含めたレポートを読み上げます。8月の派遣を振り返りながらレポートを書くことで、平和の大切さを再確認しました。



長崎派遣中に参加した「青少年ピースフォーラム」の修了証が、団員一人ひとりに手渡されました。

編集後記 平和交流派遣団を終えて

大学生サポーター 兼子拓也

高比良研人

まず初めに、事前学習にかかわってくれた方々、受け入れてくださった長崎市の皆様、平和交流派遣を実施するにあたってお世話になった皆様に、心よりお礼申し上げます。

私たち大学生にとって、戦争について考える授業がほとんどないので、戦争について知識を深めることがすごく懐かしく感じましたし、中高生と戦争や平和について議論することがとても新鮮でした。そして、今まで受けてきた授業でも、得られるのはインターネットや文献の知識であって、生の声を聴き、実際に事が起きた場所に訪れるというのはとても貴重な経験でした。それぞれの場所へ赴き、長崎の方々や全国から来た派遣団の方々と話しているうちに、これから私たちも平和の輪を広げていかななくてはならないと強く感じました。

皆さんは城山小学校の3つの願いをおぼえていますか。3つの願いには「大きな希望」「広い心」「深い愛」とありましたね。皆さんはこの活動を通じてこれらすべてを持つことができたと思います。そして、ぜひ身近で小さな戦争が起きたときに実践してください。実行に移せる力があります。ぜひ今回の活動で身につけたことを今後の生活に役立ててください。

6月の結団式に始まり、非常にいろいろなことを身につけ、考えた活動でした。実施までの2か月間、団員がどのように平和について調べ、考えたのが伝われば幸いです。



**武蔵野市青少年平和交流派遣団
活動報告書**

**編集担当
兼子拓也、高比良研人**

発行 平成 29 年 11 月